

ありがとうございました



室内環境学会創設会員であり、名誉会員の松下秀鶴先生がお亡くなりになりました。

謹んでご冥福をお祈りするとともに、先生が室内環境の改善、室内環境問題の研究、そして後進の指導に果たされたご貢献に心より感謝いたします。

先生は東京大学大学院化学系研究科で学ばれ、理学博士の学位を取得され、労働省労働衛生研究所、のちの産業医学総合研究所に奉職されました。私が先生のお仕事に初めて触れたこの時期であり、空気中の発がん性、変異原性物質であるベンツピレンのペーパークロマト法による分析です。自動車トンネル出口の空気を採取し、多環芳香族を溶媒抽出し、硝子板に塗布したセルロース上で分離し、紫外線を照射して分離された多環芳香族のスポットのセルロースを掻き取り、定量する方法でした。大学院生であった私は、その原理の素晴らしさ、作業の緻密さに、ゾクゾクとした興奮を覚えました。

国立公衆衛生院に移られてから、エイムズ法による変異原性物質のスクリーニング法を日本で初めて確立されました。公衆衛生院の研究室にずらっと並んだ冷蔵庫、培養器を見るたびに、先生のお仕事にスケールの大きさに圧倒されました。国立公害研究所の部長も併任され、空気汚染物質研究、変異原性物質研究のパイオニアとして研究成果を世界に発信されました。ISIAQ (International Society of Indoor Air Quality and Climate)などで、奥様を伴われて我々後進の研究発表をにこやかに批評されていたお姿を、今でもはっきりと思い出すことができます。

静岡県立大学に移られ、日本人学生だけでなく、アジアからの留学生を精力的にご指導になり、空気汚染という国境のない問題に、国境を越えた視点で取り組まれて、多くの教え子たちが世界の各地で環境問題の専門家として活躍しています。ご退官後も、研究会などで温かい中にも、分析化学に対して鋭い指摘を受けることも度々あり、空気汚染に対する衰えを知らぬ情熱をお示しになりました。

個人的にも数多くの推薦状を書いていただいた先生を失った寂しさを強く感じております。これからも先生の慈愛の籠った笑顔と鋭い指摘を思い浮かべながら、空気汚染問題に立ち向かって行きます。

ありがとうございました。

合掌

柳沢幸雄